

フロンティアスクール中間報告書

都道府県名

新潟県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	加茂市立若宮中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	1	7	14
生徒数	57	71	69	2	199	

研究の概要

1. 研究の主題

一人一人の生徒に確かな学力をつける指導の方法

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

(1) 2年生・数学习熟度別少人数指導

生徒の理解の速さや深さに大きな差が生じる教科・学年である。2年生数学の内容は1年生で学習したことを応用する内容がほとんどである。数学に苦手意識をもつ生徒はこれまでの学習内容を復習しながら授業を進める必要がある。反面、もっと問題をたくさん解きたい、発展的な課題をやって応用力を身につけたいという生徒もいる。一人一人の生徒に確かな学力をつけるために数学にA・B二つのコースを設定し、きめ細かい指導の充実に図る。

(2) 全学年・トレーニングタイム（漢字・計算・英単語）

全校生徒を対象に週4回、5限開始前の10分をトレーニングタイムの時間と位置づけ、漢字・計算・英単語の基礎・基本の定着を図る。加茂南小学校でも実施しているトレーニングタイムでも連携を密にし、学区の子どもたちに、確かな学力とともに、学習習慣の形成や学習規律の確立、更に継続の重要性や学習に対する達成感・成就感を味わわせたい。

(3) 2、3年生・選択教科（国語、数学、英語、社会、理科の5教科のコース別学習）

5つの教科にそれぞれ「補充演習コース＝理解が不十分なので、十分に理解したい人のためのコース」「深化発展コース＝理解はしているが、もっと進んだ学習がしたい人のためのコース」の二つのコースを設ける。生徒の興味や関心、理解に応じて選択させる。その際、自己選択・自己決定ができるようにガイダンス機能の充実に図る。選択教科での学習が、教科の学習にどのように反映されているかを分析し、一人一人の生徒に応じた履修の方法を模索する。

学校規模、職員の配置、これまでの「総合的な学習の時間」の実践研究の成果から、数学に限らず、全校体制で全職員が「学力向上」の実践に取り組むため、以上の3つを核と位置づけた。

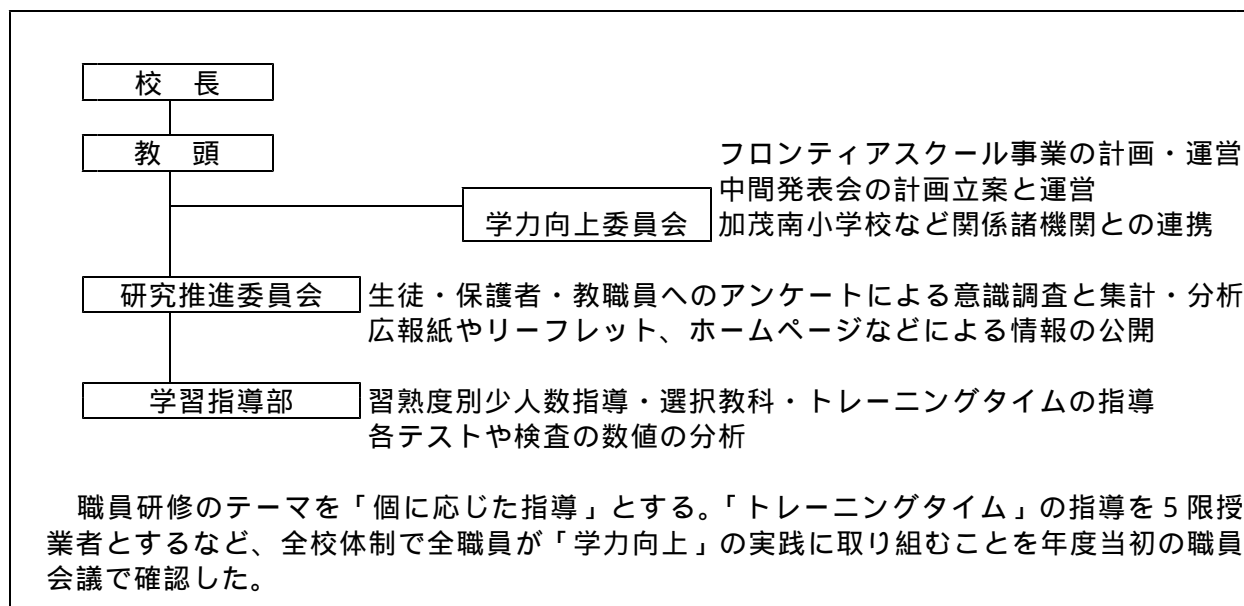
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 一人一人の生徒に確かな学力をつける指導の方法</p> <p>研究の見通し</p> <p>「トレーニングタイム」によって全校生徒に基礎・基本の定着を図り、「2年生数学习熟度別少人数指導」をはじめ、普段の授業や「選択教科」において、個に応じたきめ細かい指導の充実に図ることで、一人一人の生徒に確かな学力をつけることが可能となる。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 2年生数学における「習熟度別少人数指導」</p> <p>学習集団編成・選択についての研究</p>
--------	---

	<p>式と計算、数量関係、図形の3つの領域において、学習集団を編成するために「準備問題」を実施する。同時に、それがコース選択の判断材料として有効かどうかを生徒・保護者へのアンケート調査から探る。</p> <p>習熟に応じた学習過程の工夫</p> <p>「Aコース(基礎)」「Bコース(標準・発展)」の各コースで、「進度を変えずに深度を変える」学習過程を組む。また、それに応じた教材を開発する。</p> <p>アンケートの実施</p> <p>領域終了後にアンケートを実施し、結果を「習熟度別少人数指導」の改善に役立てる。</p> <p>(2)「トレーニングタイム」の実施による基礎・基本の定着</p> <p>習熟に応じた教材を開発</p> <p>基礎的な内容から発展的な課題まで、一人一人が理解に応じて選択ができることを念頭に置いて、漢字・計算・英単語のワークを選定し、プリントの作成を行う。</p> <p>効果の分析</p> <p>「NRT」などの数値を詳細に分析し、「トレーニングタイム」の成果が、教科の学習にどのように反映されているかを探り、指導方法、教材などの改善を図る。</p> <p>(3) 2、3年生「選択教科」の充実</p> <p>各教科・各コースの教材の開発・指導方法の工夫</p> <p>「補充演習コース」「深化発展コース」の各教科、各コースに適した教材の開発と個に応じた指導方法の工夫を行う。</p> <p>ガイダンス機能の充実</p> <p>生徒一人一人が自分の興味や関心、理解に応じて自己選択・自己決定できるようにガイダンス機能の充実を図る。また、ガイダンスの時期・方法・対象などを生徒・保護者にアンケートを実施し改善を図る。</p> <p>効果の分析</p> <p>「NRT」などの数値を詳細に分析し、選択教科での学習が必修教科での学習にどのように反映させているかを探り、指導方法・教材などの改善を図る。</p>
--	---

平成16年度	<p>テーマ 一人一人の生徒に確かな学力をつける指導の方法 ～学び合いを通して、自らの力を伸ばす生徒の育成～</p> <p>研究の見通し</p> <p>習熟度別少人数指導や選択教科、普段の授業で個に応じたきめ細かい指導の充実を図ると、教師と一人一人の生徒とのかかわりが強くなり、生徒と教師一対一だけの関係で授業が進んでしまう傾向がある。少人数の中で、あるいは一斉指導の中で、生徒同士が「学び合い」、より高い結論や価値を導き出すことができる指導方法を工夫し、集団の中での「学び合い」を通じて、一人一人の生徒に確かな学力をつけることが可能となる。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1)(2)(3)の内容・方法を継続する。更に、以下(4)(5)(6)の内容・方法を加える。</p> <p>(4)「学び合う」学習集団の形成についての研究</p> <p>生徒の所属する学級が、互いのよさを認め合い、共に向上しようとする「学び合う」学習集団となるための学級経営のあり方について追求する。</p> <p>学習規律の確立や、家庭学習の習慣化など生徒・保護者と連携した取組を行う。</p> <p>(5)小中の連携の強化</p> <p>授業参観や情報交換が中心だった加茂南小学校と連携を更に強化する。具体的には、小中9年間のトレーニングタイムのカリキュラムの作成と小中の先生によるTT指導やゲストティーチャーとしての授業交流を実施する。</p> <p>(6)ガイダンス機能の充実</p> <p>2、3年生と保護者を対象にした「選択教科」の説明会と授業見学会だけでなく、全校生徒保護者を対象にした「学習説明会」を5月9日(日)に実施し、学力向上の取組を紹介し、理解と協力を求める。</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果と今後の課題

1. 研究成果

(1) 2年生数学における「習熟度別少人数指導」

「準備問題」の有効性

数と計算、数量関係、図形の3つの領域において、学習集団を編成するために、「保護者向け案内文書」「コース希望調査」「準備問題と解答」を作成し配布した。「コース希望調査」の結果を数学部で分析し、以下のような結果を得た。

「数と計算」領域

まず、「コースの決定は主に誰が行ったか」については、Bコースでは70%の生徒が自分で決定したのに対して、Aコースで自分で決定した生徒は50%であった。

「コース選択の判断材料」として、A・Bコースとも「1年生の時の通知表の評価」とした者が一番多く（Aコース：57%、Bコース：56%）、ついでBコースでは「準備問題で自分の理解度を確認して」とした者が38%であったが、Aコースでは「親のアドバイス」でコースを決めた者が38%いた。

「数量関係」領域

「コースの決定は主に誰が行ったか」については、Aコース68%、Bコース83%の生徒が自分で決定したと答えた。「コース選択の判断材料」として、Bコースの51%の生徒が「準備問題の結果」とし、Aコースの46%の生徒が「1年生の時の通知表の評価」とした。

A・Bコースにおいて、コース選択の主体者が生徒自身となり、「判断材料」も「準備問題」で自分の力を判断してコースを選択する生徒が増えた。このことから、「準備問題」がコース選択にあたり有効に機能したことがうかがえる。

「わかる授業」こそが「好きだ・楽しい」につながる

A・Bコース合わせて95%の生徒が習熟度別コース学習について「とてもよい」「よい」と答えてる。更に、各領域の学習前と学習後を比較した自己評価の結果は以下のようになっている。

領 域	数と計算				数量関係			
コース	Aコース		Bコース		Aコース		Bコース	
学習前・後	学習前	学習後	学習前	学習後	学習前	学習後	学習前	学習後
わかる	4.7	7.1	6.0	7.3	4.0	6.2	5.5	7.4
好き・楽しい	3.9	6.2	5.6	6.4	4.2	5.9	5.1	6.4

いずれのコースも「学習内容がわかる」と「授業が楽しい・好きだ」のポイントが同じ

ような割合で向上している。わかる授業こそが一人一人の生徒の学習への意欲や授業への満足につながっていることがわかる。

習熟に応じた指導過程＝「進度を変えずに深度を変える」

「円周角」の単元において、A・Bコースで以下のような指導過程で授業を行い、円周角と中心角の関係を明らかにすることができた。

Aコース	教科書にある位置関係の場合について、既習事項を復習・利用しながら証明していく。
Bコース	3つの位置関係があることを予想し、それぞれの場合について証明していく。

Aコースでは少人数の利点をいかし、教師と生徒が既習事項を確認しながら、証明することができた。Bコースでは、生徒がいろいろな考えを出しながら証明することができた。

(2)「トレーニングタイム」

「トレーニングタイム」は平成14年度から実施している。

平成15年度の改善点

14年度の反省を基に、今年度は、以下のように改善を加えた結果、昨年以上に意欲的に「トレーニングタイム」に取り組む生徒が増えた。

漢 字	1、2年生は教科書の新出漢字の読み書きの「練習ノート」、3年生は入試問題中心の小テストを行う。今年度はノート、ファイルの点検、同一問題での再テストなど「漢字テスト」後の指導の充実を図り、一人一人の生徒に着実な漢字の読み書きの力をつける。
言 算	「A問題」は全員が解くことができる基本問題、「B問題」は「A問題」が終わった人がチャレンジする応用・発展問題と問題数の多い問題集を使用。昨年の「もっとたくさん」「もっと難しい問題をもっと」という生徒の要望に応える。「計算テスト」は「A問題」から出題。「A問題が難しい」という生徒のためにテスト前に質問教室を開き、復習をしてからテストに臨めるようにする。
英単語	プリントの表を「基礎」裏を「発展」とし、自分に合うコースを選択する。「基礎」は英語を日本語に「発展」は日本語を英語に書き換える問題で、一枚のプリントの表・裏を使って正誤を確認する。1回のトレーニングタイムで30個の英単語の練習を行う。「発展」には英訳・和訳の問題を取り入れ、「文法や英文を学習したい」という昨年の生徒の要望に対応する。

「トレーニングタイム」の成果～NRTの領域別通過率より

NRT：国語（言語事項）の通過率

	3年	2年	1年
3年生	110	94	108
2年生		121	104
1年生			116

NRT：英語（書くこと）の通過率

	3年	2年
3年生	119	94
2年生		94

NRT：数学（数と式）の通過率

	3年	2年	1年
3年生	114	109	98
2年生		101	100
1年生			113

各領域での向上が見られる。更に、加茂南小学校での「トレーニングタイム」の成果で入学時の1年生の「言語事項」「計算」領域の通過率が高い。

成績優秀者の氏名掲示・表彰による意欲づけ

漢字・計算・英単語と4～6回の「トレーニングタイム」が終わると「まとめテスト」を実施した。各教科とも「成績優秀者」の基準を設け、その氏名を掲示した。更に、前期（4月～10月）3回が終了すると、「成績優秀者」を表彰し、更なる意欲につなげた。

	基 準	1 年 生	2 年 生	3 年 生
漢 字	1 0 0 点 × 3 回 合計が 2 8 8 点以上	1 0 名 1 8 %	2 1 名 3 0 %	3 1 名 4 5 %
計 算	1 0 0 点 × 3 回 合計が 2 7 0 点以上	2 4 名 4 2 %	4 0 名 5 6 %	4 1 名 5 9 %
英単語	9 0 点 × 3 回 合計が 2 4 0 点以上	2 6 名 4 6 %	4 4 名 6 2 %	5 7 名 8 3 %

各「まとめテスト」とも、回を追うごとに優秀者として氏名が掲示される数が増加した。更に、学年があがるにつれて、表彰者の割合も増えていることから、氏名掲示や表彰が「トレーニングタイム」の意欲づけになっていることがわかる。

(3) 「選択教科」

4 ～ 1 0 月までの前期の「選択教科」の学習が終了した時点でのアンケート結果から、以下のことがうかがえる。

ガイダンス機能の充実による教科・コース選択の理由の明確化

「教科・コースを選択した理由」について「補充演習コース」の 8 3 % の生徒が「理解が不十分なので、もっとよく理解したい」としている。また、「深化発展コース」の 5 6 % の生徒が「理解しているが、もっと進んだ学習がしたい」とし、更に 2 8 % の生徒が「検定に合格するため」と答えている。教科・コースの選択にあたって、説明会や見学会を開いたことで、より一人一人の生徒がより明確な目的をもって教科・コースを選択したといえる。

少人数指導の利点をいかして、満足度 9 0 %

各教科・各コースとも少人数指導の利点をいかし、より一人一人の生徒の興味や関心、理解に応じたきめ細かい指導が行われたことで、「授業の内容や進め方」について、「A : とてもよい」「B : よい」とした生徒の割合が 9 0 % となった。

「検定」受検・合格者の増加

「深化発展コース」の選択者を中心に、漢字・数学・英語の各検定に受検を希望する者が増え、合格者も増加した。(漢字検定 : 7 7 % 4 0 名、数学検定 : 7 7 % 1 6 名、英語検定 : 8 1 % 2 1 名の合格率と合格人数)

(4) 保護者・地域に向けた広報活動

広報紙「フロンティア」の発行

保護者に向けて、学力向上の取組や成果を紹介するために広報紙「フロンティア」を発行した。

号	発行日	主な内容
1	4 月 2 1 日	学力向上フロンティア事業本校の取組、トレーニングタイム
2	5 月 2 3 日	中間テスト、選択教科の学習
3	7 月 1 日	教研式学力検査の結果と分析
4	7 月 1 6 日	通知表の見方～絶対評価～
5	9 月 1 日	新潟県学習指導改善調査の結果、夏休み補充学習、数学習熟度別少人数指導数と式領域のアンケート結果と分析
6	1 0 月 1 日	学習に関する意識調査アンケートの結果、検定の結果
7	1 1 月 5 日	トレーニングタイム前期表彰、数学習熟度別少人数指導数量関係のアンケート結果と分析、前期選択教科の満足度
8	1 2 月 9 日	小中連携、草津中視察、三条小学校中間発表会

前期リーフレットの発行

本校の重点教育課題である「学力向上」「総合」「心の教育」を中心に、本校の活動を紹介するリーフレットを職員の手で作成、印刷し、1 月上旬に学区の全戸に生徒の手を通じて配布し、学力向上の取組を紹介した。

ホームページによる情報の発信

広報紙「フロンティア」とリーフレットはホームページにアップし、広く公開している。ホームページを見て、11月7日群馬県草津中学校の全職員が本校の学力向上の取組を視察に訪れた。

保護者アンケートの結果

上記の取組などにより、2学期末に実施した保護者アンケートでは、88%の保護者が「学校の考えや取組がよくわかる」と回答している。

2. 今後の課題

(1)「学び合う」生徒の育成

今年度、「数学習熟度別少人数指導」をはじめ、普段の授業でも「個に応じた指導」の充実に努めてきた。その中で、職員から「教師と生徒との一対一の関係が強くなり、生徒同士が意見を交換したり、教え合ったりする場面が少なかったのではないか?」「生徒同士が教え合う中で、できた・わかったという喜びが得られる」「生徒同士が学び合う中でより高い結論や価値を導き出すことも大切ではないか?」という意見が出た。そこで、来年度は、職員研修のテーマを「学び合い」とし、全職員で授業実践を行うこととした。

(2)小中連携の強化

これまで、加茂南小学校との連携は授業参観や情報交換が中心だった。この情報交換の中で「トレーニングタイムの『まとめテスト』を小6から始めて慣れておけば、中1でのギャップが少ない」「NRTなど各検査の結果を分析し、通過率の低い領域を計画的に指導していく」「各教科の専門性をいかして、小中の先生によるTT指導やゲストティーチャーとしての授業交流を行う」で来年度に向けた具体的な提案が出された。情報交換の場を設け、確実に提案を実施して行きたい。

「トレーニングタイム」を中心に、小中9年間で学区の子どもたちに確かな学力をつけることを小中すべての職員で確認し、連携を図りたい。

(3)ガイダンス機能の充実

2学期末の保護者アンケートでは、本校の学力向上の取組の認知の割合は以下のようになっていた。()内の%は平成14年度末の数値

トレーニングタイム	83%(57%)
数学習熟度別少人数指導	48%
英語TT指導	62%(33%)
選択教科	74%(87%)

広報紙「フロンティア」や「リーフレット」、ホームページなどを通じて情報を発信してきたが、文書による発信には限界があることを痛感した。

そこで、来年度は5月9日(日)に保護者を対象とした「学習説明会」を開催し、本校の学力向上の取組を紹介し、理解と協力を求めたい。

さらに、「習熟度別少人数指導」のコース選択や「選択教科」の教科・コースの選択にあたってのガイダンスも十分に行い、生徒と保護者が自己選択・自己決定できるようにしたい。

(4)職員の負担の軽減

全校体制で全職員が「学力向上」に取り組むとしたものの、現実には、数学科の職員は授業時数の増加や打ち合わせ、教材研究と負担が増加した。また、2、3年生の「選択教科」すべてに「補充演習コース」「深化発展コース」の二つのコースを設けることで、各教員の授業時数も確実に増えた。職員の負担を軽減する具体的な方法を考えることが急務であるが、現状は難しい。

学力等把握のための学校としての取組

(1)「教研式学力調査」(4月中旬)全学年～学力実態の把握のため

(2)「新潟県学習指導改善調査」(5月上旬)2、3年生～学力実態の把握のため

(3)「学習に関するアンケート」(2月上旬)全学年～学習状況や意欲の把握のため

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- (1) 中間発表会 (平成 1 6 年 1 月 2 8 日実施)
 県内フロンティアスクール、三条地域小中学校の教職員など 8 0 名が参加した。
 「トレーニングタイム」と「数学習熟度別少人数指導」をはじめ、全学級の授業を公開した。全体会では、本校の研究の概要を発表し、ついで「習熟度別指導」分科会と「学力向上経営」分科会に分かれて、質疑をおこなった。
- (2) 三条市・加茂市・南蒲原郡地域学力向上フロンティア事業第 1 回地域協議会 (平成 1 5 年 7 月 4 日実施)
 本校の取組を各地区代表校長、教育委員会などの関係諸機関に紹介した。
- (3) 三条市・加茂市・南蒲原郡地域学力向上フロンティア事業第 2 回地域協議会 (平成 1 6 年 2 月 2 4 日実施予定)
 来年度の取組について各地区代表校長、教育委員会などの関係諸機関に紹介する予定。
- (4) 三条小学校中間発表会での発表 (平成 1 5 年 1 1 月 2 0 日実施)
 同一地域のフロンティアスクール三条小学校の中間発表会の全体会で、本校フロンティアティーチャーが本校の取組を紹介した。
- (5) リーフレットの作成
 本年度の取組の成果について、リーフレットを作成し、関係諸機関に配布の予定。
- (6) 広報紙「フロンティア」の発行
 本年度の成果にもあるように、広報紙「フロンティア」を発行し、保護者に配布した。
 1 月の中間発表会でも資料として参加者に配布した。
- (7) ホームページの作成
<http://academic1.plala.or.jp/k-wkmyjh/> に、広報紙「フロンティア」を随時更新した。
 4 月から 1 万件以上のアクセスがあった。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること (複数チェック可)

- | | | |
|----------------------|--|---|
| 【新規校・継続校】 | <input checked="" type="checkbox"/> 1 5 年度からの新規校 | 1 4 年度からの継続校 |
| 【学校規模】 | <input type="checkbox"/> 3 学級以下
<input checked="" type="checkbox"/> 7 ~ 9 学級
<input type="checkbox"/> 1 3 ~ 1 5 学級 | 4 ~ 6 学級
1 0 ~ 1 2 学級
1 6 学級以上 |
| 【指導体制】 | <input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導
<input checked="" type="checkbox"/> その他 | <input checked="" type="checkbox"/> T . T による指導 |
| 【研究教科】 | <input checked="" type="checkbox"/> 国語
<input checked="" type="checkbox"/> 外国語
保健体育 | <input checked="" type="checkbox"/> 社会
音楽
<input checked="" type="checkbox"/> その他 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 数学 | <input checked="" type="checkbox"/> 理科 |
| | 美術 | 技術・家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 | 無 |